



**50<sup>th</sup>**  
*Anniversary*  
創立50周年記念誌  
1976 — 2025



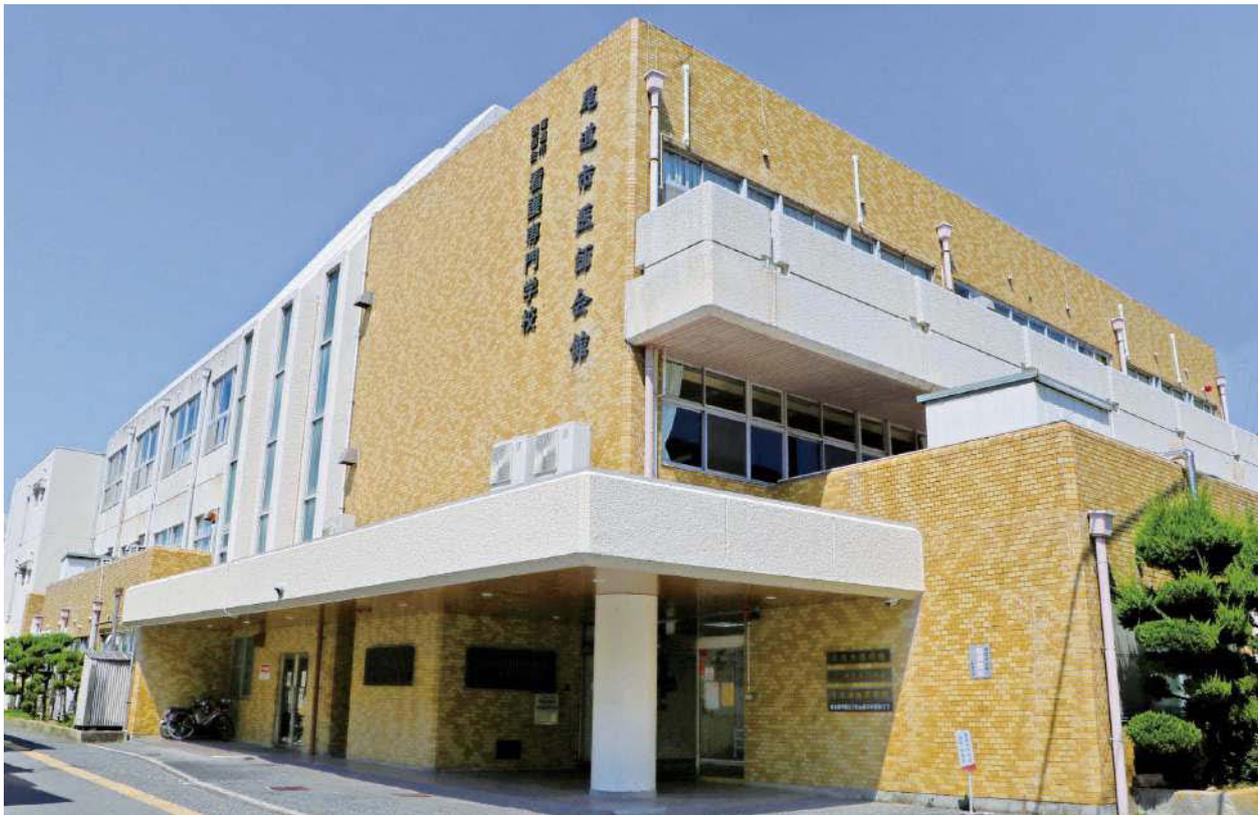
尾道市医師会看護専門学校

50<sup>th</sup>  
Anniversary  
創立50周年記念誌  
1976 — 2025



尾道市医師会看護専門学校

# 学校全景・校章・校旗



校章



校旗



## 校章・校旗の意

- 1 校章全体の楕円形は尾道市章 (■) を図案化したもので、尾道市を示すと同時に尾道 (Onomichi) の [O] を表している。
- 2 OMA (Onomichi Medical Association) は尾道医師会の英語名 (表記) の略語で、その校章内配置は尾道水道をイメージしている。
- 3 チューリップの花は、博愛・医療を意味し、Nurse college (看護学校) をチューリップの花により優しく包んでいる。

●デザイン：(故)難波 資享 1994年3月

# 目次

■ 学校全景・校章・校旗	2
■ 校歌	4
■ 巻頭言	6
■ 祝辞	7
■ 歴代学校長・歴代副学校長	8
■ 創立50周年に寄せて	
前学校長	9
副学校長	10
事務長	12
功労者	13
■ 創立50周年記念行事	
記念式典	16
記念講演	19
記念行事(学校祭)	20
■ 学校の概要・沿革	22
■ 教育課程	
教育理念・教育目的・3つのポリシー	23
教育課程構造図	25
教育課程進度表	26
講師一覧	27
■ 学校紹介	
学校行事・授業風景	28
フロア図・施設の様子	30
組織図・職員一同	31
自治会長あいさつ	32
データで見る学校	33
■ 実習施設	
実習施設一覧	35
実習施設よりお祝いの言葉	36
■ 同窓生より創立50周年のお祝いの言葉	42
■ 思い出のページ	43
■ 編集後記	44

# 校歌

## 尾道市医師会看護専門学校校歌

作詞 板 阪 卓 児  
作曲 景 山 勝 博

Moderato (♩ = 96)

The first system of the score shows the piano introduction. It consists of a treble clef staff with a key signature of two sharps (D major) and a common time signature (C). The bass clef staff provides a simple accompaniment. The music is in a moderate tempo.

The vocal line for the first system is written on a treble clef staff. It begins with a mezzo-piano (*mp*) dynamic marking. The melody is simple and easy to sing.

1. お だ や か な                    せ と の き せ つ に つ つ ま れ て  
2. き き び と の                    た か き お ん か に は ぐ く ま れ  
3. う み や ま も                    し き お り お り に い ろ を か え

The piano accompaniment for the second system continues the simple harmonic support for the vocal line. It features block chords and a steady bass line.

The vocal line for the second system continues the melody. The lyrics are written below the staff.

か ー よ う よ と せ の ま な び や は  
え が お で み ー と る こ こ ろ も ち  
ふ く し の こ ー こ ろ わ す れ ず に

The piano accompaniment for the third system continues the accompaniment. The music remains consistent in style and tempo.

The vocal line for the third system continues the melody. The lyrics are written below the staff.

ナ イ チ ン ゲ ー ル の                    せ い し ん ー を  
す べ て の ひ と に                    あ た た か ー く  
ま な び し か ん ご を                    じ っ せ ん ー に

The piano accompaniment for the fourth system concludes the piece. It features a final chord and a steady bass line.

cresc. *mf*

こころにきざむ      こころにきざむ  
 やむひとまもる      やむひとまもる  
 うつしてそだつ      うつしてそだつ

cresc. *mf*

*dim*

1. {  
 2. おのみちし    いしかい      かんごせんもん    がっこう  
 3. }

*dim*

2・3番に繰り返す時のみ演奏する。

尾道市医師会看護専門学校校歌

作詞 板阪卓児  
 作曲 景山勝博

一、おだやかな  
 瀬戸の季節に包まれて  
 通う四年の学舎は  
 ナイチンゲールの精神を  
 心に刻む  
 尾道市医師会看護専門学校

二、先人の  
 高き文化に育まれ  
 笑顔で看とる心もち  
 すべての人にあたたく  
 病む人護る  
 尾道市医師会看護専門学校

三、海山も  
 四季折々に色を変え  
 福祉の心忘れずに  
 学びし看護を实践に  
 移して育つ  
 尾道市医師会看護専門学校



尾道市医師会看護専門学校  
学校長

## 佐々木 伸孝

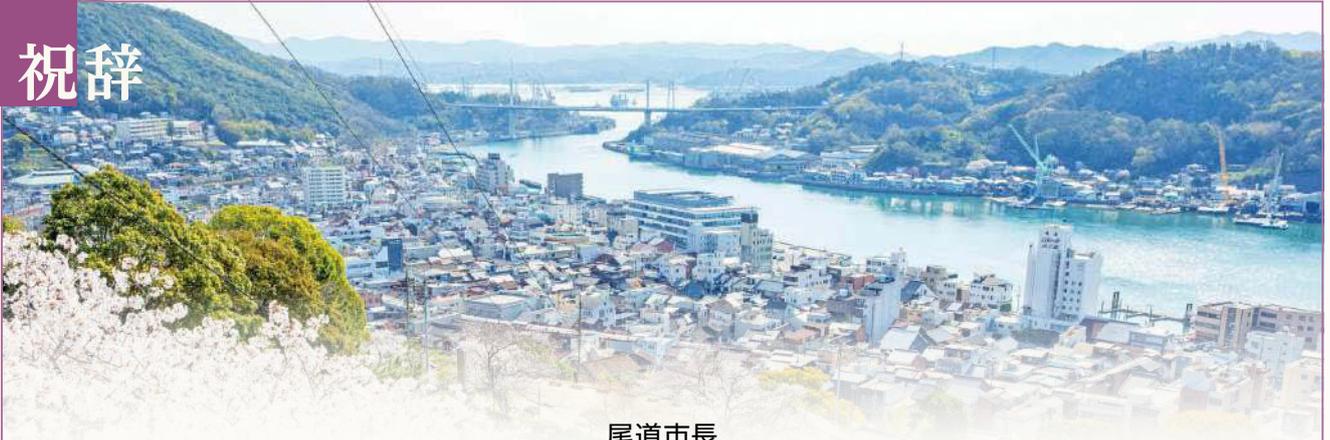
尾道市医師会看護専門学校は、本年創立50周年を迎えることになりました。この節目を迎えるにあたり、これまで本校を支えてくださった歴代の教職員、実習施設や医療・福祉関係機関の皆様、そして地域で活躍する卒業生の皆様に、心より感謝申し上げます。また、学校運営にあたり広島県、尾道市、広島県医師会のご協力を賜り改めて感謝いたします。

本校は、昭和51年に尾道市医師会高等看護学院として開校しましたが、その後まもなく尾道市医師会看護専門学校と改称して現在に至っています。本校は、午前中は病医院で看護補助者等として働きながら、午後から通学できる昼間定時制（修業年限4年）の専門学校として、これまでに1,674名の卒業生を送り出しています。

本校の教育理念は、「人に優しいひとになる」を基本に、「地域社会および保健医療福祉をめぐる環境の変化に応じて、保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護師の育成」を掲げています。創立以来50年、私たちはこの理念に基づき、知識と技術だけでなく、人と人との関わりを大切にし、暖かなまなざしと優しさをもって向き合える博愛の精神を持つ看護師の育成に努めてまいりました。また、医療や社会的変化に柔軟に対応できる力を持ち、チーム医療の一員として活躍できる人材の育成に取り組んできました。50年の歩みを振り返ると、看護を取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢化の進行、医療・福祉の連携強化、地域包括ケアの推進、さらにはICT（情報通信技術）やAI（人工知能）の活用など以前とは比較にならないほど医療は進歩しており、それに伴い看護師の役割はますます重要かつ多様になっています。その中で、卒業生が地域社会で活躍し、住民の健康と生活を支えていることは、本校の誇りであり大きな励みとなっています。

今後も本校は、信頼される看護師の育成を通じて、地域社会に貢献し続けてまいりますので、ご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 祝辞



尾道市長

## 平谷 祐宏

このたび尾道市医師会看護専門学校が、創立50周年の記念すべき節目を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。学校運営にあたり、日頃から御尽力いただいております尾道市医師会並びに学校関係者の皆様に対しまして深く感謝を申し上げます。

また、医師会の皆様方には、地域医療の最前線で、市民の生命と健康を守るために日夜お力添えをいただいておりますことに、敬意を表すとともに、衷心よりお礼を申し上げたいと存じます。

昭和51年4月に前身である尾道市医師会高等看護学院として開校以来、令和6年度までに1,674名の多くの卒業生を輩出され、学校を卒業した多くの皆様が、医療現場の最前線で活躍されていると伺っております。これも、ひとえに歴代の学校長をはじめ、教職員の方々、さらには尾道市医師会の皆様の看護教育に対する並々ならぬ熱意と御努力の賜物であり、長きにわたり尾道市の医療を支えてきていただいたことに深く敬意を表します。

さて、現在尾道市では、健康寿命の延伸を目指し、介護予防など様々な課題に取り組んでおります。また、子どもたちが地域社会の中で心豊かに育ち、安心して子育てができるよう、子育て支援体制の充実など、誰もが「おのみち」に住んで良かったと思うまちづくりに向け、全力を尽くしております。

このような取組においては、看護職をはじめとする専門職の方々の役割がますます重要となり、地域医療における看護師の育成を担う尾道市医師会看護専門学校の役割はさらに重要なものとなっております。今後とも、尾道市医師会看護専門学校の教育理念にある、「地域社会及び保健医療福祉をめぐる環境の変化に応じて保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護師の育成」に期待しております。

結びに、尾道市医師会看護専門学校のますますのご発展と皆様のご活躍とご健勝を心から御祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

## 歴代学校長



村上 裕

創設～  
昭和51年2月



吉原 敏行

昭和51年3月～  
昭和61年2月



諫見 勝則

昭和61年3月～  
平成2年3月



石井 大二

平成2年4月～  
平成8年3月



福原 純一

平成8年4月～  
平成12年3月



片山 壽

平成12年4月～  
平成24年3月



森本 茂人

平成24年4月～  
平成24年12月



宮野 良隆

平成24年12月～  
令和4年6月



佐々木 伸孝

令和4年6月～

## 歴代副学校長



藤原 鮮

昭和51年8月～  
昭和52年12月



久山 栄一

昭和53年1月～  
平成2年2月



上野 武久

平成2年3月～  
平成10年2月



酒井 聰子

平成3年4月～  
平成10年12月



坂上 正樹

平成10年3月～  
平成16年3月



武田 敏子

平成11年1月～  
平成19年9月



山辺 高司

平成16年4月～  
平成22年3月



重松 るり子

平成19年10月～  
平成24年3月



吉原 英介

平成22年4月～  
令和4年6月



神波 るみ

平成24年4月～  
平成30年3月



原 久恵

平成30年4月～  
令和5年3月



数田 泰治

令和4年6月～



浮田 秀子

令和5年4月～  
令和6年12月



橋本 笑子

令和6年12月～

(敬称略)

# 創立50周年に寄せて



## 感謝

尾道市医師会看護専門学校  
前学校長

### 宮野 良隆

尾道市医師会看護専門学校創立50周年おめでとうございます。

節目である50周年を無事迎えられたこと元学校長の一人として大変嬉しく思っています。

これも偏に歴代役員、教職員の努力の甲斐もあって無事に50周年を迎えられたものと、改めて感謝します。

本校は医師会館が現在地に移転する際に設立されました。

尾道市医師会100周年記念史によれば経済的な大きな負担だけではなく、設立にあたって当時の厚生省との折衝など大変なご苦労があったようです。

そういった経緯を経て開校に至った看護専門学校ですが、准看同様に「働きながら学ぶ」といった定時制のシステムを取り入れたことは、学ぶ機会の均等を確保するといった意味からも素晴らしいと考えられています（色々ご意見はありますが）。

「働きながら学ぶ」といった大変な選択をされた卒業生の皆さんが、尾三圏域のみならず全国津々浦々で活躍されていることは大変誇りに思えるものです。

学校長としては副学校長を中心に担当理事、教職員の熱心な指導のお陰で大過なく過ごしましたが、退学者、留年者が毎年出ることは頭の痛い問題でした。

その対処に教職員が苦労されている姿を見て「教育のプロ」の力が必要で、教職員は十分に「看護師養成のプロ」ではありますが、違った視

点からの教育を施すことが学業の充実ひいては教職員のモチベーションを高める意味で良いのではと考えました。

そこで、定年を控えた尾道市教育長である半田光行先生を教育顧問として就任をお願いしたところ快く引き受けていただきました。

これにより教職員の相談相手となり、今まで見えなかった教育の方向性も明らかになったように思います。

その後、半田先生には事務局長も併任して頂き医師会運営にも大いに力を発揮して頂きました。誌面をお借りしてお礼申し上げます。

現在、少子化と大学看護学部の増加により専門学校への進学者が激減し、本校への出願者数も減少の一途を辿っています。

尾道准看護学院も残念ながら閉校が決定しました。求人倍率が上昇する中、看護職を目指す者が減少している現状から今後も厳しい状況が続くものと考えられます。

然しながら看護職の必要性は社会福祉分野において変わることはありません。

大学などの大人数の教育では得られない専門学校だからこそ出来る少人数教育の実践が実力のある看護師を育てる良さではないでしょうか。

今後もテーマである「人にやさしいひとになる」を心に、素晴らしい看護教育の実践を願うばかりです。

100周年はどんな色なのでしょう。

感謝を込めて益々の発展を祈念いたします。



尾道市医師会看護専門学校  
副学校長 理事

### 数田 泰治

平成21年から非常勤講師として、平成26年に理事を拝命してから副担当として、令和4年より副学校長として学校運営に携わっています。この10数年本当にいろいろなことがありました。看護教員不足、学校教育に関わる様々な問題、学生の確保等々、教職員、理事だけで解決できない事例も多く、周りの方々のご助力により乗り越えてきました。この場を借りまして、感謝申し上げます。

看護教育を取りまく環境も大きく変わりました。看護専門学校、准看護学院は閉校するところが多くなり、県内でも看護専門学校を持っている医師会がだいぶ減少しました。そんな中、当校は幸いなことに50周年を迎えることができました。

今後は少子化などの影響もあり徐々に学校運営が厳しくなっていくことが予想されます。これから60年、70年と学校が存続できるように、教職員、担当理事一同精一杯頑張っていく所存であります。また県医師会や医師会員、近隣の病医院、行政機関、看護協会、同窓会の皆様の協力も必要不可欠でありますので、今後とも尾道市医師会看護専門学校を何卒よろしくお願いいたします。



## 尾道市医師会看護専門学校 創立50周年行事を終えて

尾道市医師会看護専門学校  
副学校長

### 橋本 笑子

創立50周年を迎え、感謝を込め、しまなみ交流館で記念式典、記念講演を開催いたしました。記念式典では、ご来賓祝辞を賜り、ご尽力くださいました方々への感謝を通し本校の歩みを実感いたしました。特別講演には田村恵子先生（がん専門看護師・医学博士）をお迎えし、NPO法人ともいき京都の活動を～地域社会で病と共に生きる～をテーマにご講演をいただき、実習指導者様と共に地域における看護師の役割を考える機会となりました。

同日午前は、学校祭で、“感恩報謝”地域の方々和未来を紡ぎたいとの思いで準備をして参りました。オープニングの三線の音色に沖縄民謡や踊り、ゲーム、みかんの販売、学習成果の掲示は、地域の方々も笑顔で楽しんでおられました。大きなチューリップオブジェは、本校の理念である博愛、思いやりを意味し、参加者との共同作成企画で“人にやさしい人になる”地域に貢献できる“看護師”をめざす、という学生たちの思いを表現できたかと思えます。

地域には多くの卒業生が活躍しており、実習等で大変お世話になっております。また、同窓会の皆様には式典はもちろん、創立50周年をお祝いくださりました。同窓会とお揃いの記念のトートバックは、在校生デザインで、日々活用し、今後も強い絆となり私共を支えてくださることと思います。

全国で7つの3年課程（昼間定時制4年）は午前中の有効活用が特徴です。所属施設様での勤務だけでなく、自分磨きが、国試や就職試験合格につながります。未来を見据えた看護師は、自ら役割を見出す必要性を感じています。カリキュラム改正では、多職種連携はもちろん、ICTを活用した教育と共に、AI利用など倫理観の強化も課題となります。

変化する社会の中で、変わらない本校の使命は地域貢献できる看護師の育成です。もっともっと柔軟に教育の質の向上をめざし努力する所存です。引き続きご理解ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

尾道市医師会看護専門学校  
事務長

### 谷前 加代子

今年、令和7年に創立50周年を迎えることになりました。

これもひとえに学生の成長を支えてくださった講師の先生方、実習施設、教職員や地域の皆さまのご支援があってこそです。皆様に感謝申し上げます。

創立以来、今まで多くの看護師を送り出してきましたが、近年は入学希望者が減少しています。創立30周年であった20年前、平成17年度の受験者数と比べると、令和6年度の受験者数は半数以下でした。

少子化や大学志向の影響などによって入学希望者が減少しているのは、本校だけではなく、多くの医師会立看護学校に共通しています。また、入学者の基礎学力の低下も多くの医師会立看護学校に共通しているようです。

令和7年度の入学者数は定員を下回りましたが、入学した学生を看護師として社会に送り出

すため職員は頑張っています。

さて、私自身は学生さんたちと接する機会はほぼありません。

卒業式当日、式を前に卒業生から教職員に感謝を伝える時間があります。卒業生のみなさんは、入学から卒業までに山あり谷ありあったことと思いますが、みなさん晴れやかな笑顔が印象的な時間です。

ある年のこと、私にも御礼として花束をいただきました。握手のために差し出した私の手は氷のように冷たく、恐る恐る手を差し出したのですが、握手をした瞬間、「大丈夫ですか？」と声をかけてくれました。私は冷たすぎる自身の手が申し訳ないと思うと同時に、声かけがうれしく、胸が熱くなりました。きっと彼女は優しい看護師として活躍しているだろう、と卒業式のたびに思い出しています。





医療法人土本医院  
理事長

## 土本 薫

このたびは、尾道看護専門学校創立50周年おめでとうございます。

本当に単純にすごいことだと、お喜びを申し上げます。

私と看護専門学校の関係は2000年に老年看護学の非常勤講師として始まります。

2000年というのは介護保険制度発足の年であり、私個人的にはクリニックを現地に移転した、思い入れのある年でもありました。当時医師会長から講師依頼があり、自信はありませんでしたが、新たな自分への課題としてお引き受けしました。当初は先輩講師方や教職員さんに質問ばかりしていました。

講義の原稿やパワーポイントを作るとき、教室での風景を想像しながらやっていると、ついつい思い入れが高まりすぎて翌日睡眠不足になることもありました。当初はこんなことを言っただけで、あんなことを教えてやろうと頭の中だけでの知識を自分なりに考えていました。学生さんとのやりとりについて、プレゼンテーションスキルを学ぶためにも、コミュニケーションの実技研修なども挑んでいました。

そんな中で、いろいろな脳内パラダイムシフトがあり、「世の中からすべての病気が無くなって、医者や薬はいらなくなるかもしれないが、君たち看護師はどうしても必要だよ」などと、「看護学」の本質に関して考え、それを自信を持って伝えることができるようになりました。スピリチュアルレベルでの気づきなどもあり、教えてやっているではなく、教えてもらっている、気づ

かせてくれていることに気づきました。

尾道市医師会看護専門学校は特別な場所です。働きながら学べるチャンスを提供しており、それを通常としているところがとてもユニークです。当たり前のことですが「働かざる者、食うべからず」ということわざもあります。しかし、この当たり前のことが簡単にはできないのが現状です。昨今はずるいことをする人の方が偉いと勘違いさせる風潮もあり、とても悲しいことと感じています。そんな中で、働きながら学生生活続けることができるチャンスを提供している尾道市医師会看護専門学校は、とてもすごいことをしています。私は23年間、続けることができました。ほんの少しですが、尾道市医師会看護専門学校に関わることができて、すべての学生さん、学校教職員様、医師会の皆様に心から感謝しております。今後のご清栄をお祈りしております。

## 創立50周年に寄せて



医療法人  
産婦人科よしはらクリニック  
理事長

### 吉原 英介

この度尾道市医師会看護専門学校（以下看専）が創立50周年を迎えるにあたりまして、心よりお慶びを申し上げます。

私と看専との関わりを少し申し上げます。2001年に吉田雄一先生からの依頼で『病理・女性生殖器』の講義を担当することになりました。翌2002年からは『母性臨床』との2科目の担当となりました。その後2009年には『母性臨床』の担当を退き、代わりに『人体の発生と成り立ち・老化の仕組み』の中の婦人科に関係した解剖を担当しました。25年間にわたり2科目の講義を担当してきました。産婦人科の開業医は少なく誰かが講義を担当しなければなりません。断るという選択枝はありませんでした。特に当時の看護スタッフの不足を考えますと、看専への貢献は必須と思えました。後に看専の担当理事となり講義の依頼をする立場になった際には、諸先生方に快く講義を担当して頂きありがたく思いました。

2010年から2022年の間は副校長として関わらせて頂きました。講義を担当してはいましたが、自身は教育者ではありません。副校長としてどのように振る舞えば良いか悩ましい所でした。そこで学校は病院、学生は患者、教員は病院スタッフと置き換えて学校の業務に当たるように意識しました。とにかく教員室に顔を出し、色々と学校の業務について話を聞いて、管理者ではなく応援団長のつもりで業務にあたりました。

目標の一つは経営の安定です。学生数の確保が課題となります。受験者数増加、学生数確保のためには、他校との差別化が必須です。一番のアピールポイントは国家試験の合格率になります。学校の目標として当然の事ですが、敢えてこれを強調し講義内容・日々の授業における講師の方向性を明確にし目標を統一するように心懸けました。また教育の充実には教員の確保が必須ですが、十分な専任教員を確保することが大変困難でした。その他教材の充実、環境の改善としてトイレの改装を順次行いました。

看専が医師会立である事は大きなアピールポイントです。医療機関でアルバイトできること、学生の立場で医療の現場に関わることは学生本人にとって大きな経験となることを、高校の進路指導の先生方や学生にアピールしてきました。教育面では医師会員が教壇に立つことで、より実践に則した教育が受けられることなど、将来看護師として従事する際に糧となる事を伝えてきました。しかし毎年予算編成や決算の際ははずいぶん悩まされたことが思い出されます。学校は非採算部門で、補助金を頂いている関係上余剰金を極力減らし、若干の赤字くらいでちょうど良いことが分かるまで、随分年月がかかりました。

2016年より元尾道市教育委員会・教育長の半田光行先生を教育顧問としてお迎えしました。校内の運営、生徒・教員への指導、モンスターペアレント、ハラスメント等への対応、県との交渉など様々な面で助けて頂きました。組織の中に教育の専門家がいる事の重要性・必要性を深く認識しました。

学校運営を評価するシステムとして、看専運営委員会がありますが、2019年からは医師会以外の役員を新たに迎える事としました。これにより学校運営が更に発展するきっかけになりました。

また私は性感染症エイズ対策プロジェクトも担当していたので、毎年市内の各高等学校を訪問し、校長先生に面談していました。その際には看専の入学案内を配布しアピールすることにしていました。それぞれの高校で校長先生と色々とお話しでき、楽しかった事が思い出されます。

尾道市医師会の定款には医師会の目的及び事業として『看護師等養成に関する事項』がうたわれています。地域医療の充実・存続のため看護師の存在は必須です。近隣の看護系の学校が閉校していく中、引き続き地域で看護師を育成していく事は大変重要な事だと思います。学校の存続は今後益々厳しくなると想像されますが、着実な運営と発展を祈念いたします。



医療法人能宗クリニック  
理事長

## 能宗 紀雄

尾道市医師会看護専門学校が創立50周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

私が看護学校で皮膚科の講義を担当させていただいたのは、JA尾道総合病院に赴任してきた翌年の平成9年から、授業カリキュラムの変更でお役御免になりました令和5年まで27年間でした。皮膚科に割り当てられた授業数は年間4回でしたので通算でも100回余ということになるのでしょうか。諸先輩の先生方々や後輩の方々に比べてもとても貢献したとは言い難くおこがましいのですが、この度創立50周年記念式典において感謝状を賜りましたことは、私にとりまして身に余る光栄であり心から感謝申し上げます。

27年前、講義を始める前に看護師の国家試験を見てみましたが、皮膚科関連の問題は年間1~2問、将来皮膚科領域にかかわる看護師になられる方も僅かであろうと考えました。年間90分4回の講義時間で学生の方に皮膚科をどのように理解してもらうかは永遠のテーマみたいなものでした。

医療の世界では昭和から平成、令和と医学は日進月歩であり、新しい治療の開発が進んでいます。皮膚科でも生物学的製剤やJAK阻害剤など高額な治療法が導入され、尋常性乾癬やアトピー性皮膚炎の重症例で難治性の方への治療では驚くほどの治療効果が見られるようになりました。講義に使うテキストのボリュームは20年間あまり変わりませんでした。医学の進

歩とともに最先端の内容にも触れられていました。

教科書そのままに内容を文章で説明するのではなく、臨床写真やパワーポイントで出来るだけインパクトのある内容を供覧し、皮膚疾患の幅広さ、奥深さに触れてもらい、どの領域の看護師になっても知っておいて欲しい皮膚科学を伝えたいつもりです。皆さん、少しは覚えてくれているでしょうか？

この数年は、医師会の理事として、特に会計の担当としては教育内容の充実や学習環境の整備など、学校運営の一端を担わせていただきました。限られた予算、国県や県医師会などからの貴重な補助金を使い、地域医療を支える人材を育成するという重責を教職員一同が真摯に担い続けてこられたことに深い敬意を表したいと思います。

最後に、半世紀という年月の中で、多くの卒業生が巣立ち、地域医療の現場で活躍していることは尾道市医師会の大きな財産であると思います。こうした歩みを支えてこられた医師会の先輩方や学校の教員、事務員全ての方々に深い感謝を捧げるとともに、本校がこれからも地域社会に信頼される看護人材を育み続けられることを心から祈念申し上げます。

- 日時：令和7年10月26日(日) 午後2時
- 場所：しまなみ交流館 (テアトロシェルネ)

### 第1部 記念式典

#### 式次第

- ・ 開式の辞
- ・ 学校長式辞
- ・ 来賓祝辞
- ・ 来賓紹介
- ・ 祝電披露
- ・ 感謝状贈呈
- ・ 校歌斉唱
- ・ 閉式の辞



学校長 佐々木 伸孝



# 来賓祝辞



広島県健康福祉局 医療介護担当部長  
今井 真由美



尾道市 副市長 澤田 昌文



一般社団法人 広島県医師会  
常任理事 土谷 治子



尾道市医師会看護専門学校  
同窓会会長 安部 江美子

## 来賓 (敬称略)

役 職	氏 名
広島県健康福祉局 医療介護担当部長	今井 真由美
尾道市 副市長	澤田 昌文
一般社団法人 広島県医師会 常任理事	土谷 治子
尾道市医師会看護専門学校 同窓会会長	安部 江美子
尾道市 福祉保健部長	水田 章治
一般社団法人 世羅郡医師会 会長	卜部 利真
一般社団法人 尾道市歯科医師会 会長	黒瀬 寿康
一般社団法人 尾道薬剤師会 会長	友滝 恵子
社会福祉法人 尾道市社会福祉協議会 会長	加納 彰
学校法人尾道学園尾道中学校高等学校 理事長	加藤 晴彦
広島県厚生連尾道看護専門学校 副学校長	谷川 裕子
福山市医師会看護専門学校 学校長	大石 豪彦





**表彰者一覧** (敬称略)

<b>実習病院施設</b>	
尾道市立市民病院	
J A尾道総合病院	
社会医療法人 里仁会 興生総合病院	
医療法人 永和会 下永病院	
一般社団法人 尾道市医師会 介護老人保健施設 やすらぎの家	
一般社団法人 尾道市医師会 訪問看護ステーション	
ひまわり訪問看護ステーション	
訪問看護ステーションむかいしま	
学校法人 華野学園 認定こども園スミレ幼稚園	

<b>非常勤講師</b>	
尾道市立市民病院 循環器内科	小林 博夫
医療法人 能宗クリニック 理事長	能宗 紀雄
医療法人 土本医院 理事長	土本 薫
医療法人 産婦人科よしはらクリニック 理事長	吉原 英介

<b>功労者学校医</b>	
元 久山内科医院 院長	久山 栄一

<b>功労者歴代学校長</b>	
福原内科医院 院長	福原 純一
元 片山医院 院長	片山 壽
医療法人社団 みやの耳鼻咽喉科 理事長	宮野 良隆
医療法人 森本医院 院長	森本 茂人

<b>功労者歴代副学校長</b>	
元 久山内科医院 院長	久山 栄一
医療法人社団 上野会 上野整形外科 名誉院長	上野 武久
医療法人社団 坂上整形外科クリニック 理事長	坂上 正樹
医療法人社団 啓卯会 村上記念病院 病院長	山辺 高司
医療法人産婦人科よしはらクリニック 理事長	吉原 英介
	酒井 總子
	武田 敏子
尾道准看護学院 教員	重松 りり子
	神波 るみ
	原 久恵

## 第2部 記念講演会



## 演題

これからの地域における看護師の役割  
～地域社会で病と共に生きる人の支援～

## 【講師】 田村 恵子 先生

- ・特定非営利活動法人ともいき京都 代表
- ・京都大学 名誉教授
- ・学校法人大阪歯科大学大学院看護学研究科（仮称）開設準備室 室長

## 【講師プロフィール】

1996年 聖路加看護大学大学院看護学研究科修了。1997年 がん看護専門看護師の認定を取得。1987年より我が国におけるホスピス・緩和ケアの草分け的存在である大阪市・淀川キリスト教病院に27年間勤務し、約6,000名を超える看取りに寄り添ってきた。2008年にはその姿がNHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』でも紹介された。2006年 大阪大学大学院医学系研究科修了。医学博士。2014年より京都大学大学院医学研究科教授を務め、2015年には地域で暮らすがん患者・家族・市民が対話を通じて支え合う市民活動「NPO法人ともいき京都」を設立。病や老いを抱えながら生きる人々を地域で支える「コンパッションネイ・コミュニティ」の形成を目指し、幅広く活動している。2024年5月より現職。

2025年10月26日  
令和7年南尾道市医師会看護専門学校 創立50周年記念 特別講演

これからの地域での看護師の役割  
～地域社会で病いと共に生きる人とその家族の支援～

田村 恵子  
大阪歯科大学大学院  
看護学研究科（仮称）開設準備室



## 講演のアウトライン

- ともいき京都活動紹介
- ともに「探求する」こと
- 支え合うコミュニティづくりのビジョン
- まとめ



## Take Home Message



## 1. 対話を通じた相互理解と支え合いの重要性：

対話は、病む人やその家族、医療者、市民が互いの価値観や立場を理解し合い、支え合うための重要な手段である。ともいき京都の活動で実践されている対話を通じて、参加者同士が新たな視点を得るとともに、生きる力を育むことが可能である。

## 2. 地域社会での支え合いの必要性：

病む人やその家族が、住み慣れた地域で安心して生活を続けるためには、地域全体での支え合いが不可欠である。地域での支援活動やコミュニティの役割が、療養生活の質を向上させ、孤立を防ぐ大切な要素である。

## 3. 「コンパッション都市」の未来ビジョン：

今後目指すべきは、がん体験者や病む人だけでなく、すべての人が互いに共感し支え合う「コンパッション都市」の創設である。このビジョンに基づき、誰もが地域で支え合う仕組みを作るために、自分自身がどう行動できるかを考えることが求められている。



# 創立50周年記念行事

# 学校祭

- 日時：令和7年10月26日(日)  
午前10時～午後1時
- 場所：しまなみ交流館前芝生広場  
(尾道駅前)



尾道市医師会看護専門学校  
**学校祭**  
かん おん ほう しゃ  
**感恩報謝**  
～地域と共に 紡ぐ 50年 描く未来～

日時 令和7年 10月26日(日)  
時間 10:00～13:00  
場所 しまなみ交流館前芝生広場(尾道駅前)

三線演奏♪  
10:00～ オープニングセレモニー  
演奏者：高江原省二さん、仲西樹さん、吉野太市さん、古堅知里さん

- \*販売  
・パン  
・シフォンケーキ  
・みかん等
- \*遊びコーナー  
・ダンボールフリスビー  
・新聞紙ダーツ
- \*無料体験コーナー  
・職体験

12:00終了予定  
売り切れ終了

50th

駐車場のサービスは  
ありません

本券1枚で  
みかん1個プレゼント  
お一人様1個まで \*限定50個

オープニング  
セレモニー





売店



無料体験  
コーナー



50周年記念  
トートバッグ



# 学校の概要・沿革

## 設置目的

看護師になろうとする者に必要な基礎的知識・技術・豊かな人間性を養い、保健・医療・福祉に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。

## 沿革

昭和51年 2月13日	保健婦助産婦看護婦法第21条第2号に規定する看護婦養成所として厚生大臣により指定
昭和51年 4月15日	尾道市医師会高等看護学院として開校
昭和51年 8月16日	尾道市医師会高等看護学院を学校教育法第81条の8号1項の規定により、専門学校尾道市医師会高等看護学院として許可
昭和51年12月 1日	尾道市医師会看護専門学校と改称
平成 2年 4月 1日	保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則一部改正により教育課程改正
平成 7年 7月23日	創立20周年記念式典挙行
平成 9年 4月 1日	保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則一部改正により教育課程改正及び実習施設の変更申請承認
平成12年 2月 1日	保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則第3条第1項の規定に基づき教育課程改正及び実習施設変更申請承認
平成12年 4月 2日	保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則第3条第1項の規定に基づき教育課程改正
平成14年 8月 8日	保健師助産師看護師法施行令第13条第2項に基づき、学則一部変更申請後承認 平成15年4月4日より施行
平成17年 6月25日	創立30周年記念式典挙行
平成19年 4月 1日	保健師助産師看護師学校養成所指定規則第3条第1項に基づき教育課程一部変更申請後承認
平成21年 4月 1日	保健師助産師看護師学校養成所指定規則一部改正により教育課程改正
平成25年 4月 1日	保健師助産師看護師法施行令第13条第2項の規定に基づき学則一部変更申請後承認
令和 4年 4月 1日	保健師助産師看護師学校養成所指定規則一部改正により教育課程改正及び実習施設の変更申請承認

## 教育理念

本校の教育理念は、地域社会及び保健・医療・福祉をめぐる環境の変化に応じて、保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護師の育成である。

本校のシンボルは、チューリップの花言葉『博愛・看護』を意味します。

※博愛＝人間愛を基盤に生命を尊重し、全ての人々と平等に対応し、人の気持ちを理解でき、感性豊かな人間性を有することである。

※看護＝健康のレベル、成長・発達のあらゆる段階にある対象が自らの力で、健康な生活を整えることができるように支援すること。生活過程に働きかけることで、生命の消耗を最小限にすること。また、人間関係を基盤として科学的根拠に基づいた実践であり、問題解決過程である。

以上のように本校の理念を位置づける。

## 教育目的

看護師になろうとする者に必要な知識・技術・豊かな人間性を養い、看護に対する喜びと誇りを持って、保健・医療・福祉に貢献しうる有能な人材を育成する。

## 3つのポリシー

### ● アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

1. 看護師になりたいという意思がある人
2. さまざまなこと（人や地域社会など）に関心を持てる人
3. 素直さ、誠実さ、謙虚さを持ち、責任を持ち取り組める人
4. 自ら考え、課題解決に向けて前向きに努力し続ける人
5. 様々な人とコミュニケーションを図れる人

### ● ディプロマ・ポリシー（卒業認定、専門士授与の方針）

1. 対象者の成長発達や健康レベル、生活の場に応じた看護を実践できる知識を身につけている。
2. 対象のもてる力を活かした看護実践ができるための原理・原則に基づいた技術を身につけている。
3. 幅広い体系的な専門知識を修得し、科学的根拠を持ち対象の状況に応じて論理的・批判的思考により課題解決していくことができる。
4. 地域医療の現状と専門職の機能と役割を理解している。
5. 倫理観を持ち、一人一人をかけがえのない人として尊重する態度を身につけている。
6. 生涯にわたり研鑽し続けられるよう、主体的に学び続ける力を身につけている。

### ● カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本校は、ディプロマ・ポリシーに掲げる到達目標を達成するために、看護学の学修が基礎から応用に向けて積み上がるようにカリキュラムを編成する。教育内容、教育方法、学習成果の評価については以下のように方針を定める。

#### 1. 教育内容

**基礎分野：** 看護を学ぶための基礎となるもので、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、主体的な判断行動がとれる基礎的能力を養う。又、人間と社会のしくみを理解し、多様な社会、文化、価値観を理解する幅広い視野を持ち、国際化に対応しうる能力、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を養う科目を配置する。

**専門基礎分野：** 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断の基盤となる健康から疾病に至るまでの身体の変化と診断・治療を理解し、また、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じた社会資源の活用ができるための保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係職種役割を理解する基礎的能力を養う科目を配置する。

**専門分野：** 基礎分野、専門基礎分野での学びをもとに、臨床判断能力や看護の基盤となる理論、技術、看護の展開方法の基礎的能力を養う科目を配置する。又、地域で生活する人を理解し、成長発達や健康レベル、様々な生活の場に応じた看護を実践できるための基礎的能力を養う科目を配置する。さらに、看護の専門性を高めるために、幅広い視野、チーム医療・多職種連携のための看護師の役割を理解し、対象の状況に応じて、看護実践を行うための基礎的能力を養う科目を配置する。

#### 2. 教育方法

看護の向上を目指して探求心を養うために、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。ビジョン・ゴールを掲げ、学生自身の能力や発想を引き出し、目標に向い自主的な行動がとれるように支援する。豊かな人間性を養うために、看護学生に必要なマナーについて教科外活動・授業を通して学んでいく。

#### 3. 学習成果の評価

各科目のシラバスに示された評価方法をもとに評価を行う。  
学生による授業評価を行い、教育方法の改善につなげる。

# 教育課程構造図



看護に必要な知識・技術・豊かな人間性・看護に対する喜びと誇り  
保健・医療・福祉に貢献しうる看護師の育成

分野	科目名	単位	学年	1年		2年		3年		4年	
			時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎	情報リテラシー	1	30	30						
		論理的思考と表現	1	15	15						
		教育の原理	1	15		15					
		教育の方法	1	15				15			
	人間と生活・社会の理解	生命科学	2	30	30						
		生活科学	1	15	15						
		生活と社会	1	15	15						
		心理学	1	30	30						
		人間関係論	1	30	30						
		基礎英語と医学英語	2	45	45						
家族関係論	1	30	30								
健康と運動	1	30		30							
基礎分野合計			14	300	240	45		15			
専門基礎分野	人体の構造と機能	生化学	1	30		30					
		栄養学	1	30			30				
		人体の発生と成り立ち・老化の仕組み	1	30	30						
		人体の運動機能と生体防御	1	30		30					
		呼吸器・循環器の構造と機能	1	30		30					
		消化器と泌尿器・内分泌の構造と機能	1	30		30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	15			15				
		臨床検査	1	30			30				
		薬物による治療	1	30			30				
		手術・放射線による治療	1	30				30			
		病理学総論	1	15		15					
		呼吸器の病態と治療	1	30			30				
		循環器の病態と治療	1	30			30				
		内分泌と代謝の病態と治療	1	30			30				
		消化器・生体防御の病態と治療	1	30				30			
		脳神経・運動器の病態と治療	1	30				30			
	健康支援と社会保障制度	感覚器・生殖系の病態と治療	1	30				30			
		おのみの医療	1	15		15					
		法律と医療	1	15			15				
		社会福祉	2	30					30		
		公衆衛生学	2	30		30					
		小計	23	570	30	165	180	165	30		
		専門基礎分野合計	23	570	30	165	180	165	30		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30						
		看護過程	1	30			30				
		看護研究基礎	1	30				30			
		ヘルスアセスメント	1	30		30			30		
		フィジカルアセスメント	1	30			30				
		共通看護技術	1	30	30						
		生活環境援助技術	2	45		45					
		食と排泄援助技術	1	30		30					
		身体の清潔援助技術	1	30			30				
		診療の補助技術	1	30			30				
		救命救急処置技術	1	15			15				
		小計	12	330	60	105	75	60	30		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護総論	1	15			15				
		地域の健康と暮らしを支える看護	2	30				30			
		在宅での療養者・家族を支える看護	1	15					15		
		地域・在宅に必要な生活ケア	1	15					15		
		地域・在宅に必要な医療的ケア	1	30					30		
	小計	6	105			15		30	60		
	成人看護学	成人看護学総論	1	30			30				
		生命の危機状態にある人の看護	1	30				30			
		疾病を持つ人の生活調整	1	30			30				
		緩和ケアが必要な人の看護	1	30				30			
		成人看護技術	2	45					45		
	小計	6	165			60	30	75			
	老年看護学	老年看護学総論	1	30			30				
		高齢者の生活を支える看護	1	15				15			
		健康障害のある高齢者の看護	2	45					45		
	小計	4	90			30	15	45			
	小児看護学	小児看護学総論	1	30				30			
		健康障害のある子どもの看護	2	45					45		
		小児看護技術	1	30					30		
	小計	4	105				30	75			
	母性看護学	母性看護学総論	1	30				30			
周産期看護		1	30				30				
周産期の異常と看護		1	15					15			
母性看護技術		1	30					30			
小計	4	105				60	45				
精神看護学	精神看護学総論	1	30				30				
	精神に障害がある人の看護	2	45					45			
	精神に障害がある人の看護技術	1	15					15			
	小計	4	90				30	45	15		
看護の統合と実践	看護管理	1	15					15			
	災害看護・国際看護	1	30					30			
	医療と安全	1	30					30			
	看護の探求	1	30						30		
小計	4	105					30	45	30		
専門分野合計(学科)			44	1095	60	105	180	135	315	270	30
臨地実習	基礎看護学	病院環境を理解する実習	1	30		30					
		観察・コミュニケーション実習	2	60			60				
		日常生活援助実習	2	90					90		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90							90
		退院に向けた生活を支える実習	2	90							90
	成人看護学	生命維持・安定を支える実習	2	90							90
		生と死を支える実習	2	90							90
	老年看護学	在宅復帰を支援する実習	2	90							90
	小児看護学	小児看護学実習	2	90							90
	母性看護学	母性看護学実習	2	90							90
精神看護学	精神看護学実習	2	90							90	
看護の統合と実践	統合実習	2	90							90	
専門分野合計(実習)			23	990		30	60		90	810	
総合計			104	2955	330	345	360	360	360	360	840

## 講師一覧

科目名	学年	担当講師名
情報リテラシー	1	木村 文則
論理的思考と表現	1	高島 彬
教育の原理	1	信木 伸一
教育の方法	3	山田 和大
生命倫理	1	松井 富美男
生活科学	1	手島 洋
生活と社会	1	藤井 佐美
心理学	1	水師 葉月
人間関係論	1	西村 一生
基礎英語と医学英語	1	黒飛 和葉
家族関係論	1	宮畑 加奈子
健康と運動	1	藤岩 秀樹
生化学	1	森田 哲生
栄養学	2	風盛 実加子
人体の発生と成り立ち・老化の仕組み	1	板阪 利生 / 吉原 英介 / 数田 泰治
人体の運動機能と生体防御	1	吉田 真里
呼吸器・循環器の構造と機能	1	山辺 高司 / 則行 敏生
消化器と泌尿器・内分泌の構造と機能	1	田邊 輝真 / 諫見 康弘
微生物学	2	金本 隆司
臨床検査	2	金本 隆司
薬物による治療	2	三宅 直美
手術・放射線による治療	2	瀬浪 正樹 / 村田 年弘 / 森 浩希
病理学総論	1	諫見 康弘
呼吸器の病態と治療	2	片岡 幹男
循環器の病態と治療	2	小林 博夫 / 片岡 幹男
内分泌と代謝の病態と治療	2	橋本 昌美 / 杉本 盛人
消化器・生体防御の病態と治療	2	若井 雅貴 / 亀頭 晶子
脳神経・運動器の病態と治療	2	上野 宏泰
感覚器・生殖器の病態と治療	2	浜名 智昭 / 小坂 正和 / 小林 賢 / 吉原 英介
おのみちの医療	2	佐々木 伸孝
法律と医療	2	甲賀 隆博
社会福祉	3	吉田 崇
地域・在宅看護総論	2	佐古田 専美
在宅での療養者・家族を支える看護	3	林 身江子 / 田辺 千里
緩和ケアが必要な人の看護	3	小田原 めぐみ
老年看護学総論	2	奥本 みゆき
健康障害のある子どもの看護	3	衣川 佳数 / 岩瀧 真一郎 / 青木 由美
小児看護技術	3	佐藤 朋美
周産期看護	3	岩下 光
周産期の異常と看護	3	篠田 裕子
精神看護学総論	2	尾野 加世子 / 岩下 豊美
精神に障害がある人の看護	3	阪上 浩文 / 舛元 和矢
看護管理	3	田中 千枝子
災害看護・国際看護	3	長谷 朋美
医療と安全	3	柿迫 ゆかり / 古市 加奈

# 学校紹介

# 学校行事・授業風景

**4**



- 入学式 ●新入生歓迎会
- 1年生：研修
- 4年生：臨地実習開始

**5**



- 県東部スポーツ交流会

**6**



- オープンスクール
- 3年生：日赤救急法救急員養成講習



**10**



- 県下看護研究発表会
- 学校祭

**11**



- 宣誓式
- 宣誓式祝賀会
- 4年生：臨地実習終了

**12**



- 4年生：校内看護研究発表会
- 1年生：基礎実習

# EVENT SCHEDULE

7

●公開授業  
●2年生：日赤救急法基礎講習

8

●夏休み

9

●防災訓練



3年生：日赤養成講習会



2年生：診療の補助技術



2年生：施設見学



4年生：校内看護研究発表会



卒業生歓送会



卒業式

1

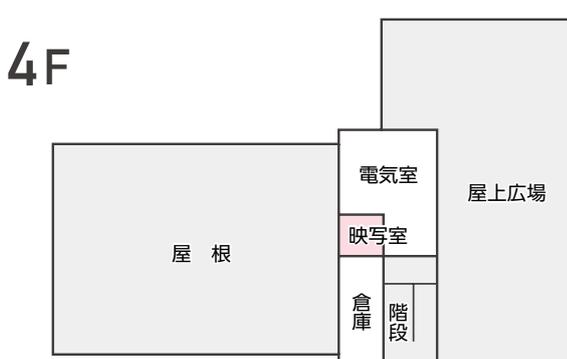
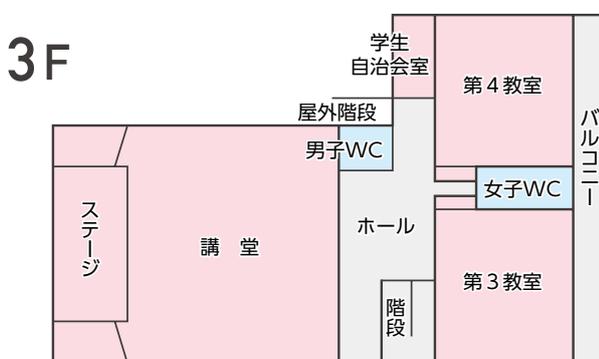
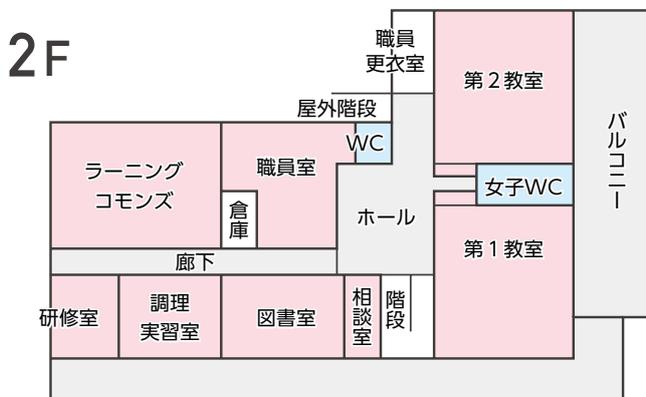
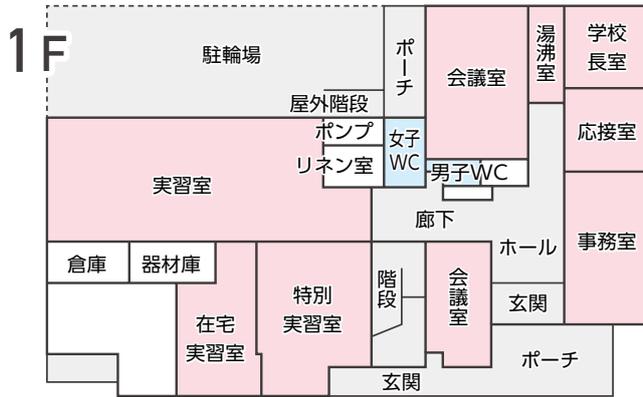
●3年生：基礎実習

2

●2年生：基礎実習  
●4年生：看護師国家試験受験

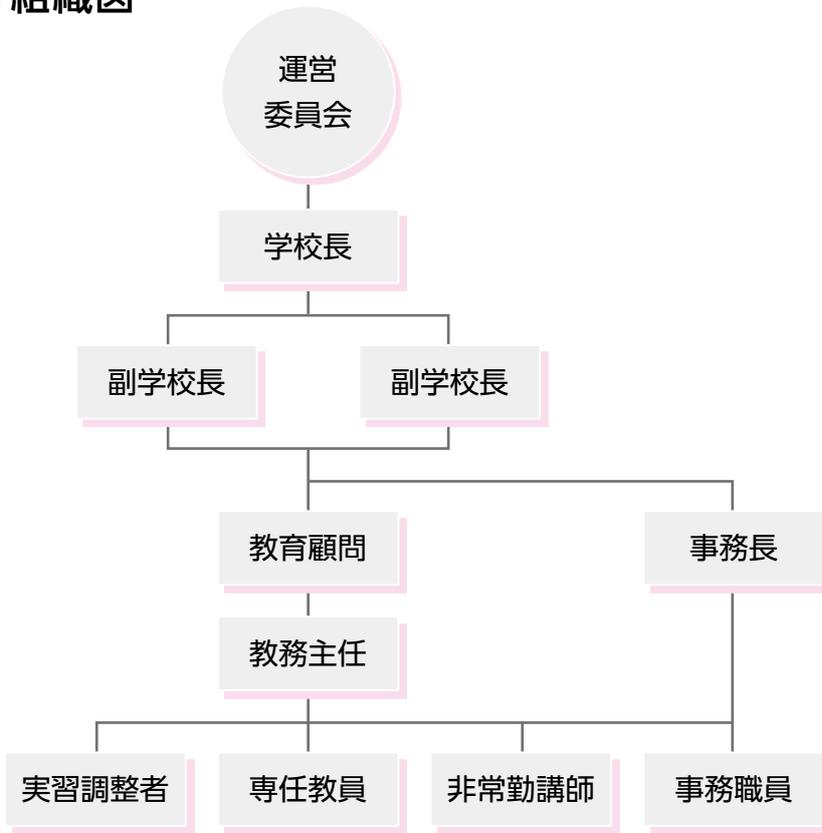
3

●卒業生歓送会  
●卒業式  
●3年生：研修



# 組織図・職員一同

## 組織図



## 教職員一覧

氏名	
橋本	笑子
浮田	秀子
林	清美
土井	恵子
橋本	淳子
亀川	典子
平義	希
森数	貴美
上川	忍
吉原	優子
安保	千栄
西迫	沙織





## “みんな”がいたから、 ここまで来られた

自治会長

森川 友翔

本校が創立50周年という大きな節目を迎えられたことに、在校生を代表して心より祝い申し上げます。50年という長い年月の中で、本校は地域医療を支える多くの看護師を育成し、その歴史の一つひとつが今の私たちの学びに繋がっています。先輩方が築いてこられた努力と情熱の積み重ねに心から敬意を表します。

私たち在校生は、看護師を志す仲間として日々の学びに励み、人と向き合う難しさと尊さを実感しています。命を預かる重みを感じながら、患者さん一人一人に寄り添うことの大切さを学び続ける毎日は、決して楽な道ではありません。それでも支え合いながら前へ進むことができるのは、先生方の温かいご指導、そしてともに努力を重ねる仲間たちの存在があるからです。

今年度、私たちは創立50周年の節目に相応しい学校祭を開催しました。自治会長として、初めて142人という大人数を取りまとめ、イベント全体の運営を担いました。正直に言うと、準備段階では想像以上の難しさを痛感しました。意見の調整や時間の管理、限られた予算の中でどうすれば皆が満足できる行事にできるのか、壁にぶつかることも少なくありませんでした。

しかし、私一人では決して成し遂げられなかったこの行事も、自治会の仲間と先生方の支えがあったからこそ成功に導くことができました。お互いに助け合い、意見を出しあいながら一つの形を作り上げる過程はまさに、「チームで支える看護」に通じるものでした。本番では、学生も先生も地域の

方々も笑顔で過ごし、会場全体が温かい雰囲気になりました。その光景を見た瞬間、苦労がすべて報われたように感じました。

今回の学校祭では、看護師として活動されながら三線の演奏をされているお方をお招きし、ステージを盛り上げていただきました。三線の力強い歌声に、私たちは看護の世界の広がりや、人と人とのつながりの大切さを改めて感じました。看護師以外、三線の活動にも力を入れ地域を盛り上げていることに心を打たれ看護の可能性を改めて考える機会となりました。

この経験を通して学んだのは、「一人の力では大きなことは成し遂げられない」ということ、そして「支えあうことで想像以上の力が生まれる」ということです。これは看護の現場でも同じであり、チーム医療の中で互いに支えあいながら患者さんを支援していく姿勢にもつながると感じています。

これからも私たちは学びの中で得た知識や経験を糧に、どんな時代の変化にも柔軟に対応できる看護師を目指して歩んでいきます。そして、これまでの50年を築いてこられた先輩方の思いを受け継ぎ、次の50年を担う存在として、思いやりと誇りを胸に努力を続けてまいります。

最後に、本校の発展を支えてこられたすべての先生方、卒業生の皆さま、地域の方々に心より感謝申し上げます。私たち在校生は、この50周年という記念の年を新たな出発点とし、看護の心を未来へとつないで行けるよう、これからも一歩ずつ前へ進んでまいります。

## データで見る学校

## 国家試験状況

※全国合格率は既卒を含む

受験年	国家試験			合格率(%)		不合格者合格年(人数)
	受験者数	合格者数	不合格者数	本校	全国*	
昭和57	38	38	0	100.0		
58	38	38	0	100.0		
59	31	31	0	100.0		
60	36	36	0	100.0		
61	37	37	0	100.0		
62	40	40	0	100.0		
63	38	38	0	100.0		
平成元	40	39	1	97.5		平成元年秋(1名)に合格
2	43	43	0	100.0		
3	33	33	0	100.0	95.4	
4	44	43	1	97.7	98.5	平成 6年(1名)に合格
5	39	39	0	100.0	99.2	
6	39	39	0	100.0	98.9	
7	41	40	1	97.6	96.0	平成 8年(1名)に合格
8	33	30	3	90.9	89.8	平成 9年(1名)、平成12年(1名)、平成22年(1名)に合格
9	42	41	1	97.6	87.0	平成17年(1名)に合格
10	40	31	9	77.5	83.6	平成11年(8名)に合格
11	40	40	0	100.0	97.1	
12	34	34	0	100.0	96.4	
13	34	33	1	97.1	84.1	平成14年(1名)に合格
14	35	32	3	91.4	84.3	平成15年(3名)に合格
15	32	31	1	96.9	92.6	平成16年(1名)に合格
16	40	39	1	97.5	91.2	平成17年(1名)に合格
17	40	38	2	95.0	91.4	平成20年(1名)、平成22年(1名)に合格
18	40	35	5	87.5	88.3	平成19年(4名)、平成23年(1名)に合格
19	38	37	1	97.0	90.6	平成20年(1名)に合格
20	46	42	4	91.3	90.3	平成21年(4名)に合格
21	34	33	1	97.1	89.9	平成23年(1名)に合格
22	31	29	2	93.6	89.5	平成23年(1名)、平成24年(1名)に合格
23	33	33	0	100.0	91.8	
24	33 (9月卒含)	31	2	93.9	90.1	平成25年(1名)、平成26年(1名)に合格
25	41 (6月卒含)	35	6	85.4	94.1	平成26年(4名)、平成27年(2名)に合格
26	37 (7・8月卒含)	32	5	86.8	89.8	平成27年(4名)に合格
27	32 (12月卒含)	32	0	100.0	95.5	
28	26 (7月卒含)	25	1	96.2	89.4	
平成29	36 (5・9・11月卒含)	36	0	100.0	88.5	
30	38 (9月卒含)	38	0	100.0	91.0	
令和元	40 (9月卒含)	39	1	97.5	89.3	令和 2年(1名)に合格
2	39 (9月卒含)	39	0	100.0	89.2	
3	29 (9月卒含)	27	2	93.1	90.4	令和 4年(2名)に合格
4	33	33	0	100.0	91.3	
5	31	28	3	90.3	90.8	令和 6年(1名)、令和 7年(1名)に合格
6	34 (9月卒含)	32	2	94.1	87.8	令和 7年(1名)に合格
7	28	28	0	100.0	90.1	

年度別・就職先県別状況

※広島県の（ ）内の数字は尾道市内就職者数で内数である。

	広島県	東京都	神奈川県	千葉県	大阪府	兵庫県	岡山県	島根県	山口県	福岡県	長崎県	沖縄県	その他	合計
平成29年度	25 (11)	1			2	2	3	1					4	38
平成30年度	32 (12)				3	1	1	1					2	40
令和1年度	27 (4)	2			2		3	1			2		2	39
令和2年度	20 (4)		1		1	2	1	1	1				2	29
令和3年度	27 (9)					3	2						1	33
令和4年度	22 (7)	1	1	1		2				1			3	31
令和5年度	27 (4)		1			3	1						2	34
令和6年度	23 (5)	1				2						1	1	28



# 実習施設

## 実習施設一覧

	施設名
病院	JA尾道総合病院
	尾道市立市民病院
	社会医療法人 里仁会 興生総合病院
	医療法人 永和会 下永病院
介護老人保健施設	一般社団法人 尾道市医師会 介護老人保健施設 やすらぎの家
訪問看護ステーション	一般社団法人 尾道市医師会 訪問看護ステーション
	ひまわり訪問看護ステーション
	訪問看護師ステーションむかいしま
幼稚園	学校法人 華野学園 認定こども園 スミレ幼稚園



JA尾道総合病院



尾道市立市民病院



社会医療法人 里仁会 興生総合病院



医療法人 永和会 下永病院

一般社団法人 尾道市医師会  
介護老人保健施設 やすらぎの家一般社団法人 尾道市医師会  
訪問看護ステーション

ひまわり訪問看護ステーション



訪問看護師ステーションむかいしま

学校法人 華野学園 認定こども園  
スミレ幼稚園

## 創立50周年 おめでとうございます

JA尾道総合病院  
病院長

田中 信治

尾道市医師会看護専門学校創立50周年誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

尾道市医師会による看護職員養成の歴史は古く、1917年(大正6年)の尾道市医師会附属看護婦産婆養成所設立に始まります。以来数回の名称変更を経て、1961年(昭和36年)に尾道准看護学院となり長年存続して来ましたが、やむを得ない事情により来年度で生徒募集が終了となります。残念です。一方、1970年代に医療の高度化が進み、優れた看護師の必要性から、1976年(昭和51年)4月15日に尾道市医師会高等看護学院が開校、同年12月1日に現在の尾道市医師会看護専門学校に改称されたと聞いております。貴校からは毎年40人余りの卒業生が社会に送り出され、これまで多くの卒業生が各分野で活躍しておられます。

JA尾道総合病院は1957年(昭和32年)に農業協同組合によって開設され、2011年(平成23年)5月に平原台に新築移転し、今年で開設68年目を迎えました。当院にも貴校から優秀な看護師さんが就職され病院を支えて頂き感謝しております。なお当院は、高度急性期に対応する公的病院としてチーム医療を実践し、①がん医療、②救急医療、③小児・産科医療、④災害医療、⑤へき地医療の分野を広く担っています。

現在、尾三地域は少子高齢化、人口減少、開業医の高齢化と後継者不足が進んでおり、また、慢性的な医師および看護師不足のため難しい医療環境にあります。2024年(令和6年)4月から始まった「医師の働き方改革」がさらに追い打ちをかけています。尾三地域の医療体制の今後の維持・存続のためには、行政、医師会、病院、開業医などが一致団結して中長期的な視野を見据えた地域医療連携・医療体制の大改革を行う必要があります。この中で、尾道市医師会看護専門学校の役割も非常に大きいものと考えております。貴校が益々発展され、優秀な多くの看護師を輩出され尾三地域の医療に貢献されることを期待しております。

最後に、貴校の今後の御繁栄を念じますとともに、今後とも従来と変わらぬご支援とご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

## 創立50周年記念に寄せて

JA尾道総合病院  
看護部長

柿本 文重

尾道市医師会看護専門学校創立50周年、誠におめでとうございます。JA尾道総合病院 看護部を代表いたしまして、心よりお喜びとお祝いを申し上げます。

貴校は、昭和51年に尾道市医師会高等看護学院として創立以来、半世紀にわたって多くの看護師を育て、地域医療の発展に貢献されたことは素晴らしい成果です。卒業生の皆さんは、保健・医療・福祉さまざまな看護の現場で活躍し、地域社会に信頼される存在となっており、その努力と情熱に敬意を表します。

当院においても、卒業生が就職され、活躍しております。ジェネラリストとして、認定看護師として、看護管理者としても幅広く活躍しております。

また、当院は実習施設としての役割を担っております。対象となる患者さんと直接関わることで、看護師としての基本的態度・接遇・倫理観を学ぶ機会となります。そのため、臨床での体験を通じて、学生自身が自信を持って看護師として社会に出るための実践力・判断力・共感力を育てることを念頭に、経験豊富な看護師が指導者となり、教育に携わっています。今後も、臨地実習での経験が学生にとって貴重な学びの場となり、将来、看護師になるための糧となるよう、後押ししていきたいと考えております。

現在、少子高齢化、生産年齢人口の急激な減少により、医療提供体制の変革が進んでいます。看護職の果たす役割は、より一層重要なものになり、看護師養成に対する期待も大きくなっています。次世代の看護師たちに必要な知識と技術、そして人間性をしっかりと伝え、養成されることを願っています。

今後も、看護専門学校としての伝統を守りつつ、さらなる発展を遂げ、地域医療における重要な役割を担い続けていただけることを心より願っております。

尾道市医師会看護専門学校の益々のご発展と、皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 創立50周年に寄せて

尾道市立市民病院  
院長

廣岡 孝彦

尾道市医師会看護専門学校が創立50周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、これまで貴校の発展に尽力されてきたすべての関係者の皆様に、深甚なる敬意と感謝の意を表します。

地域の医療を支える看護師を育成するという使命のもと、貴校が歩んでこられた半世紀の歩みは、看護教育の理念と方法が大きく変化する時代のなかで、常に理想を追求し続けてきた軌跡でもあります。その根底には、「人に寄り添う心」と「確かな技術」を兼ね備えた教育への揺るぎない情熱があったことと拝察いたします。

これまで貴校で学んだ多くの卒業生が、地域医療の現場において専門的知識と実践力を発揮し、地域社会に貢献されてきたことは、極めて意義深く、貴校の教育の確かさを物語っています。

一方で、医療を取り巻く環境は年々複雑さを増しており、少子高齢化の進行、医療技術の高度化、多様な働き方の浸透など、看護職に求められる役割も大きく広がっています。看護師には、これまで以上に高度な判断力や柔軟な対応力、人間関係の調整力が求められ、地域包括ケアの推進、在宅医療の支援、予防医療の推進といった場面でも、重要な担い手となっています。

このような時代の要請に応えるべく、貴校が引き続き、地域社会と密に連携しながら、実践力と人間性を兼ね備えた看護師の育成に尽力されることを、心より期待しております。

結びに、尾道市医師会看護専門学校のさらなるご発展と、教職員の皆様のご健勝、そして在校生の皆様のご活躍を祈念いたしまして、創立50周年に寄せるお祝いの言葉とさせていただきます。

## 地域医療を支える

### 看護職育成

尾道市立市民病院  
副院長兼看護部長

山本 純子

尾道市医師会看護専門学校が、このたび創立50周年という大きな節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。また、長年にわたり、地域医療を支える人材の育成に対し、ご尽力されておられますことに敬意を表するとともに感謝いたします。

我が国では少子高齢社会を迎え、地域包括ケアシステムの推進・深化が進められています。そのため看護師には、病院のみならず地域のあらゆる場での役割発揮が求められています。貴校では、「保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護師の育成」を教育理念に挙げられ、豊富な知識と確かな技術の習得、温かな心を育み多様な現場で活躍できる人材の育成を担っておられ、地域の医療・看護を支える上で欠かすことのない存在です。

当院でも、貴校の卒業生が多く活躍しています。彼らは日々、患者さんのいのちと向き合い、温かい心で看護を提供しています。共に働くなかで感じることは、確かな知識に基づく看護の実践と患者さんの声に耳を傾ける姿勢、チームの一員としての責任感の強さ、そして何より看護に対する真摯な姿勢です。これらは貴校での日々の積み重ねによる指導、教育の賜物によるものに他なりません。

看護は「人を支え、社会を支える」専門職です。変わりゆく社会情勢のなか、医療の高度化は進み、専門性はより一層求められています。このような中、貴校のこれまでの歩みと実績は、多くの医療関係者にとって心強い支えであり、今後に向けた希望でもあります。地域密着の教育機関としてそうした変化に柔軟に対応できる看護師を数多く輩出されることを心より期待しております。

創立50周年を新たな出発点とし、貴校のさらなるご発展と、教職員ならびに関係者の皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

## 創立50周年 おめでとうございます

社会医療法人里仁会  
理事長

藤原 恒太郎

尾道市医師会看護専門学校が創立50周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。地域医療の一端を担う者として、また隣接する三原市で診療に従事する医師として、この歴史的な瞬間に寄稿の機会をいただけたことを大変光栄に存じます。

当法人には尾道市医師会看護専門学校をご卒業された看護師の方々も多数勤務しておられます。その皆様は、どの方も患者さんに対して誠実で温かく、地域に根ざした看護を実践されており、貴校での確かな教育と豊かな人間形成の賜物であると、深く感銘を受けております。

三原市にあった三原看護高等専修学校及び三原看護専門学校は令和5年3月に閉校となってしまいました。地域で育ち、地域に貢献する看護師を育てる場が姿を消すことは、私たちにとても非常に寂しい出来事でありました。しかし、そうした中で尾道市医師会看護専門学校が今も看護教育の灯を絶やすことなく、力強く歩みを続けておられることに、地域医療に携わる一人として、心からの感謝と敬意を表したいと思えます。

急速に進む高齢化と医療の複雑化により、看護師に求められる役割は年々広がりや深みを増しています。医療技術の進歩に加え、地域包括ケアや在宅医療、終末期医療といった分野においても、看護師の存在はますます欠かせないものとなっております。そうした中で、貴校が築いてこられた「博愛」と「看護」の姿勢に根ざした教育の精神は、今なお色褪せることなく、その価値を増していると感じております。

これからも、尾道市医師会看護専門学校が地域に誇る看護教育の拠点として、未来を担う看護師を輩出され続けることを、そしてその卒業生の皆様が地域医療の現場でますますご活躍されることを、心より願っております。

創立50周年、誠におめでとうございます。今後のご発展と関係者皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

## 創立50周年記念に寄せて ～ご縁を大切に～

社会医療法人里仁会 興生総合病院  
看護部長

奥 美映子

このたび、尾道市医師会看護専門学校が創立50周年という記念すべき節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。お祝いの言葉を寄せさせていただく機会をいただき、大変嬉しく思っております。

貴校とは、実習施設としてのご縁をいただき、数多くの学生の皆様が当院で学び、そして卒業後には看護師として当院に就職され、共に地域医療を支えてくださっております。「博愛」理念のもと、患者さんに寄り添う温かな看護は、貴校の教育の賜物であり、私たち看護職員一同、深く感謝しております。医療の現場は日々進化し複雑化する中で、看護師に求められる力も多様化しています。そうした中でも、貴校の卒業生は高い志と責任感、協調性を持ち、現場で力強く活躍されており、大変頼もしく、当院にとっても大事な人財です。

また、貴校とのご縁はもう一つあります。当院で開催しているICLS (Immediate Cardiac Life Support) コースへの参加を学生たちに進めてくださっていることです。救急蘇生法はもちろん、看護師が果たす「寄り添う力」「安心を与える力」の大切さを肌で感じることで、「人の命に向き合う姿勢」を育むことができます。学生たちの参加は、コース全体への影響力が大きく共に学ぶ機会となり、お互いの成長につながっていると感じております。

医療・看護を取り巻く環境が日々変化する中、看護の果たす役割はますます重要性を増しています。人の命と心に寄り添う看護師の存在は、社会にとってかけがえのないものです。50年という長きにわたり、貴校がその人材を育て続けてこられたことは地域にとっても大きな誇りであります。

今後も引き続き、時代のニーズに対応できる自律して判断できる看護師の養成、地域の看護の質向上にも貢献されることを願っています。

終わりに、貴校の教職員の皆様、在校生の皆様、そして卒業生の皆様のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。祝辞とさせていただきます。

## 尾道市医師会看護専門学校 創立50周年に寄せて

医療法人永和会 下永病院  
院長

池田 篤司

このたび、尾道市医師会看護専門学校が創立50周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。地域に根ざした看護教育の場として、これまで多くの優秀な看護師を育成され、尾道市および周辺地域の医療と福祉の発展に大きく寄与してこられたことに、深く敬意を表します。

医療を取り巻く環境は年々大きく変化しており、超高齢社会の進展、医療の高度化、在宅医療や地域包括ケアの拡充など、現場にはかつてない対応力と柔軟性が求められています。こうした中で、看護師は単に医師の診療の補助的役割にとどまらず、患者一人ひとりの生活や価値観に寄り添う“ケアの専門職”として、ますます重要な存在となっています。

当院でも、貴校の卒業生が多数活躍しており、その一人ひとりが優れた知識と技術、そして温かい人間性をもって患者に向き合う姿に、私たち医療従事者も大いに学ばせていただいております。彼ら・彼女らの存在が、医療現場の安心感と信頼を支えていることは言うまでもありません。これはひとえに、貴校における看護教育が、知識・技能の習得にとどまらず、人間としての成熟をも大切にされてきた成果だと感じております。

これからの時代、医療・介護・福祉がより密接に連携しながら、地域全体で住民の健康と生活を支えていく「地域共生社会」の実現が求められます。そうした社会の中核を担うのが、看護職であることは間違いありません。尾道市医師会看護専門学校には、これからも地域と共に歩み、次代を担う看護師たちの育成にご尽力いただけることを心より願っております。

結びに、本校の創立50周年を心からお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご発展と、教職員の皆様、在校生、卒業生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

## 精神科看護実習を通じて 伝えたいこと

医療法人永和会 下永病院  
看護部長

阪上 浩文

尾道市医師会看護専門学校創立50周年、心よりお祝い申し上げます。

半世紀にわたり地域医療を支える優れた看護師の育成に尽力されてきたことに、敬意と感謝の意を表します。

貴校の学生の皆さんが、当院に精神科看護実習として来られるたびに感じるのは、そのまっすぐな姿勢と、患者さんに対する温かいまなざしです。精神科の現場は、身体的なケアに加え、目に見えない「こころ」と向き合うことが求められる、看護の本質に近い場所だと考えています。

実習初日、多くの学生が不安そうな表情で現れます。

精神科病院という環境に初めて足を踏み入れ、「患者さんどう関わればよいのか」と戸惑うのも無理はありません。しかし、丁寧に挨拶をし、小さな会話を重ねる中で、学生たちは患者さんの反応の変化に気づきます。その一つひとつの気づきが、看護師としての感性を育てていくのです。

ある学生が、「患者さんが笑ってくれた」と涙を浮かべて話してくれたことがあります。

その小さな出来事は、私たち看護職が日々見逃してはならない「人と人とのつながりの原点」であり、精神科看護のやりがいでもあります。

精神科では、相手の言葉に耳を傾け、沈黙に寄り添い、日常の何気ない場面から心の動きを読み取る力が必要です。学生の皆さんには、実習を通じて「傾聴する力」や「共感する姿勢」を肌で感じてほしいと思っています。それは精神科だけでなく、すべての診療科で活かされる看護の基礎であり、核でもあります。

今後も、実習指導を通じて学生たちと真摯に向き合い、看護の尊さを伝えていくことが、私たち現場の使命であると考えています。そして、貴校で学ぶ若い世代が、地域医療の未来を支える存在として成長されることを心より願っております。

改めまして、50周年の節目にあたり、皆様のご発展をお祈り申し上げます。

## 祝辞

一般社団法人尾道市医師会  
介護老人保健施設 やすらぎの家

## 豊田 眞子

尾道市医師会看護専門学校創立50周年おめでとうございます。

介護老人保健施設やすらぎの家は、平成12年に県より認可を受けて以来25年、臨地実習場所として学生の教育に携わっております。創立50周年と伺い、その半分の年限は当施設での実習となり、多くの看護学生が学ばれていたことは感慨深いと同時に各地でご活躍されている卒業生にエールを送りたいと思います。

これまでは「老年看護学実習」の位置づけでしたが、令和4年度カリキュラム改正により令和7年度から「在宅復帰を支援する実習」となっています。高齢化社会から超高齢社会へ変わり続ける現在に合わせた看護教育への変化を感じます。

実習の目標は、1) 施設サービスを利用している老年人を理解できる、2) 在宅復帰を促す生活支援が実践できる、3) 人生の統合に向けての支援の必要性がわかる、となっています。幅広い年代の学生ですがどの年代でも未知の体験である高齢者の特徴を学習し聴覚の特徴をふまえ落ち着いてお話しすることが老年人の理解の糸口と気づくことができます。

また、利用者の正面より接ししっかり視覚から認識に働き掛けた生活支援ができるようになります。人生の統合に向けての支援とは大きな課題ですが、若い年代の学生がゆっくと時間をかけて、一人ひとりの利用者の人生のヒストリーに耳を傾け、我々の知らない戦争や苦しい時代、子育ての楽しい時代などその方の人生背景を想像して、コミュニケーションを図ります。また自ら楽しむことで目の前の高齢者を理解し、自ずと尊重した態度を習得されます。

私は当施設で10年目になりますが学生の学ぼうとする真剣な眼差しや態度が利用者の良い刺激となり元気になられている様子を多く見ます。看護学生の若いエネルギーに優しい言葉を添えて利用者の在宅復帰を促す生活支援を学んで頂きたいと思っています。

これまでに、ご尽力された初代学校長から現在の教職員の方々のご苦勞や長年にわたる医師会の先生方の支えに深い感動を持って、関係者ご一同様のご健勝をお祈り申し上げます。

尾道市医師会看護専門学校の今後益々のご発展をご祈念申し上げ、私、施設共々微力ながら力を尽くす所存でございます。

## 貴校での学びそして恩返し

訪問看護ステーションむかいしま

## 池田 絵美

創立50周年、誠におめでとうございます。

私自身も24期生として貴校で学び卒業した1人です。自身の学校生活を振り返ると、臨地実習では、行動計画表から指導を受け落ち込み、記録物も多く実習がスムーズにいかず本当に辛い日々でした。看護学生あるあるだと思います。

しかし1-3年迄は医院に所属し、参考書や薬剤の説明書をコピーしてノートに貼ったり、医師や看護師に直接教えて頂き、医療機器や看護師業務を見て触れて学べる事、患者さんと関わることでコミュニケーションや疾患・病状変化を直に学べた環境はありがたく、自分の強みでもありそれが勤労学生の特権です。学生ながら四苦八苦して先生方の指導や同期仲間と助け合いながら4年間頑張った結果、今の私があります。

看護学校の仲間と看護師、または母として再会した時の喜びはとても大きいものです。

個人的には、2人の息子がおり小学生から野球を始め、そこから同期や同職、医療従事者との出会いも増え、最近では熱中症の手当てや対策に関わることもあり知識があるからこそ場所を問わずできる看護の仕事ですごく誇りに思います。

卒業後は病棟勤務を経て、現在は在宅という環境でその方の人生歴や生活歴、環境を把握しながら依頼に沿ったケアを提供し、訪問看護師として看護・ケアを行っています。

当ステーションで実習指導を通して、スタッフも指導者としてモチベーションもあがり自分の看護を見直す機会・刺激になっています。実習指導を通して、私も貴校への恩返しになればと思って携われることに感謝しています。また何より、学生の実習を楽しみにされている利用者様やご家族がいてくださり実習の受け入れがとても良い環境です。

個人差はありますが、利用者様やご家族と少しゆったりとした関わりができる訪問看護はこれからも必要される医療事業であり、看護師の働く機関の1つとして在宅看護に少しでも興味をもっていただければ嬉しいです。

今は学校制度も少し変化していますが、沢山の看護学生を育成されてきた貴校の歴史を大切にこれからもご発展とご活躍を願っております。

## 創立50周年を祝して

尾道市医師会訪問看護ステーション  
管理者

林 身江子

このたび、尾道市医師会看護専門学校が1976年（昭和51年）に創立されて、節目の50周年を迎えられましたこと心より御祝い申し上げます。歴代の校長先生をはじめ、諸先生方の教育への情熱的なご指導と、医師会の先生方や保護者の皆さまのご理解やご協力、在校生並びに卒業生の皆さまの努力の賜物と存じます。また、長年にわたって地域に愛され、地域医療の多大なご貢献に、あらためて深い感謝と敬意を表します。

私ども、尾道市医師会訪問看護ステーションは、1995年（平成7年）に創立、2000年（平成12年）より在宅訪問看護の実習施設として受け入れを開始いたしました。実習では、看護師と共に利用者さま宅に訪問し、お話を伺い、身体ケアや医療処置、リハビリなどを実施しています。学生は其中で利用者さまと家族さまとの関わりを通して、在宅療養を支える知識や技術を習得しています。明るく誠実な実習生の訪問は大変喜ばれています。手作りの「リハビリメニュー」や「食事メニュー」「歌集」「お手紙」などは、ベットの近くにおいて何度もご覧になったり、「七夕かざり」「お月見のカード」などは、毎年そのシーズンになるとお部屋に飾られたりと、とても大切にされています。その利用者さまへの真面目でひたむきな思いは伝わっています。今後も、その方に寄り添った温かみ、信頼のある看護を展開して頂ければ幸いです。

引き続き、微力ではございますが、貴校の理念の「地域社会及び保健医療福祉をめぐる環境の変化に応じて、貢献出来る看護師の育成」に私どもも協力をさせていただきたく存じます。今後も尾道市医師会看護専門学校の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

## 尾道市医師会看護専門学校 創立50周年に寄せて

ひまわり訪問看護ステーション  
管理者

田辺 千里

尾道市医師会看護専門学校の創立50周年を心よりお祝い申し上げます。この節目の年を迎えられたことは、地域医療の発展と看護教育の向上に尽力されてきた先生方の努力と献身の賜物と存じます。

当訪問看護ステーションは2000年より在宅看護実習で携わっております。実習生は常に笑顔でやる気に満ち、学ぶ姿勢を感じます。毎年学生の訪問実習を楽しみにされているご利用者も多数おられます。

私が実習指導者として駆け出しのころのことです。ある学生がパーキンソン病のご利用者に『口腔体操リーフレット』を作成し、その学生から指導を受けたご利用者は口腔体操が楽しくなり、食前体操の定着が出来た事例がありました。そのリーフレットは良く出来ており現在も沢山のご利用者の口腔体操に使用させて頂いています。他にもエピソードは沢山あります。思い出せば笑顔と感謝が溢れます。

当ステーションと卒業生の関わりも多々あります。小児訪問看護の礎を作ってくれたのはNICUに勤務していた卒業生。やりがいを持って日夜、地域を訪問している卒業生。

都会の総合病院で疲れ、尾道に戻り、訪問看護で新たな看護観が芽生え、再び都会の病院に就職した、とても粘り強い看護師もかつて当ステーション実習で頑張った卒業生。又、当ひまわりグループの社長も24期卒業生です。当ステーションは実習生と共に学び成長し、卒業生と共に邁進しているのだと深く感じています。

50年という歴史の中で、社会や医療の現場は大きく変化してきましたが、当校はその変化に対応し、高い志を持った学生を育てる教育機関であり続けておられると思います。この間に築かれた信頼と実績は、地域医療に大きく貢献されていると感じます。そのような学校で在宅実習指導者として約20年携わらせて頂けている事、私自身も沢山学ばせて頂けている事に深く感謝致します。

今後も、尾道市医師会看護専門学校が次世代を担う優秀な看護師を育成し、地域医療の充実発展に寄与されることを期待しております。と同時にそこで学ぶすべての学生の未来がすばらしいものになるよう、心から祈念しております。

# 同窓生より創立50周年のお祝いの言葉

## 創立50周年を祝して

尾道市医師会看護専門学校同窓会  
会長

**安部 江美子**

尾道市医師会看護専門学校の創立50周年、誠におめでとうございます。この節目の年に、同窓会を代表して記念誌に寄稿させていただく機会を賜り、心より感謝申し上げます。

本校は昭和51年の開校以来、地域医療を担う多くの優れた看護職を育成してまいりました。私たち同窓生は、それぞれの現場で学校での学びを礎に歩んでまいりましたが、ふと立ち止まり、看護の原点を思い出すとき、本校での学びと、支えてくださった先生方、一緒に学んだ仲間の姿が心に浮かびます。

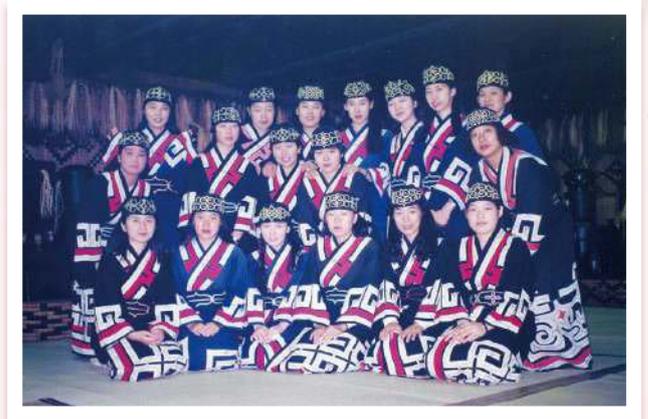
私たちの年代は「新人類」と言われ、就職時には「氷河期」と呼ばれた時代でした。そのようななかでも、学生同士が常に笑い、文化祭ではクラスで結束して当時流行した仮面ノリダーの劇を演じ、過酷な臨床実習を乗り越え、国家試験も無事全員合格いたしました。素晴らしい仲間にも恵まれましたが、今思えば、私たちは「新人類」。先生方はかなり手こずったのではないのでしょうか？このクラスが素晴らしかったと思えるのは、あるときは表に立って引っ張っていただき、ときには影からそっと見守ってくださった先生方のおかげだと感じています。

今日まで、同窓会は、卒業生相互の親睦と交流、在校生への応援を目的に活動を重ねてきました。看護を目指す若者が安心して学び、夢を達成できるよう、これからも陰ながら応援を続けていく所存です。

学校におかれましては、この50年の歩みは決して平坦な道のりではなかったと存じますが、多大な尽力と支援により、発展をされたことに、改めて敬意と感謝の意を表します。

私たちの母校が地域社会に信頼され、看護教育の拠点としてますますご発展されることを心よりお祈り申し上げます。

結びに、学校関係者の皆様、地域医療に携わる皆様、そして在校生の皆様の今後のご健勝とご活躍を祈念し、寄稿の言葉といたします。



*Memories*  
思い出の  
ページ



## 編集後記

創立50周年記念式典・記念講演後に編集作業が始まり、年末に初稿ができあがりました。学校教育機関として50周年が長いのか短いのかよくわかりませんが、学校創立から現在までの歩みとして多くの関係者からお祝いの言葉や思い出話が詰まった記念誌に仕上がっています。

頭を整理するために近所に散歩に出掛けました。寒い冬空の中、暖かい日差しのもとで気持ちよく歩きながら、前向きに本学校の卒業生が尾道市周辺で医療に携わって地域医療を支えていることを嬉しく思い、何より本校の存在意義と考えます。尾道市医師会員を中心に講師として地域性を活かした教育をしています。私も講師として携わっていますが、スポンジのように知識吸収力のある学生たちにどのようにしたら興味を持ってもらえるか毎年試行錯誤しています。学校教員も国家試験の全員合格と退学者を少しでもなくす為に熱い寄り添った指導を伝統的にされていることは本校の誇りであります。散歩も後半に入り急に風が冷たく感じ始めました。明らかに向かい風となり、散歩には厳しい時間帯となり負の感情が頭に浮かんできました。近年、近隣の看護専門学校が相次いで閉校したにも関わらず、なぜ本校の受験者数が増えないのか、これは少子化だけでは説明できない何かがあるのではと思いました。新型コロナウイルス感染症以降、医療に対する見方が変わりつつあり、仕事としての医療従事者（特に看護師）の魅力が薄れているのでしょうか？ コロナ禍の最前線で対応した看護師の姿が中高校生にとって頭に強く残り、逆に職業として遠ざけてしまったのでしょうか？ 景気が良いときは看護師の応募者が減り、不景気の時は増えると通説にあります。医療従事者はAIロボットに替わることはできないと私は考えています。現在が一過性であり、何かをきっかけに学校にとって追い風になることを期待したいです。

最後に、編集を終えるにあたり、記念誌の完成を祝すとともに、お忙しい中ご寄稿いただきました関係各位の皆様に対して心からお礼申し上げます。

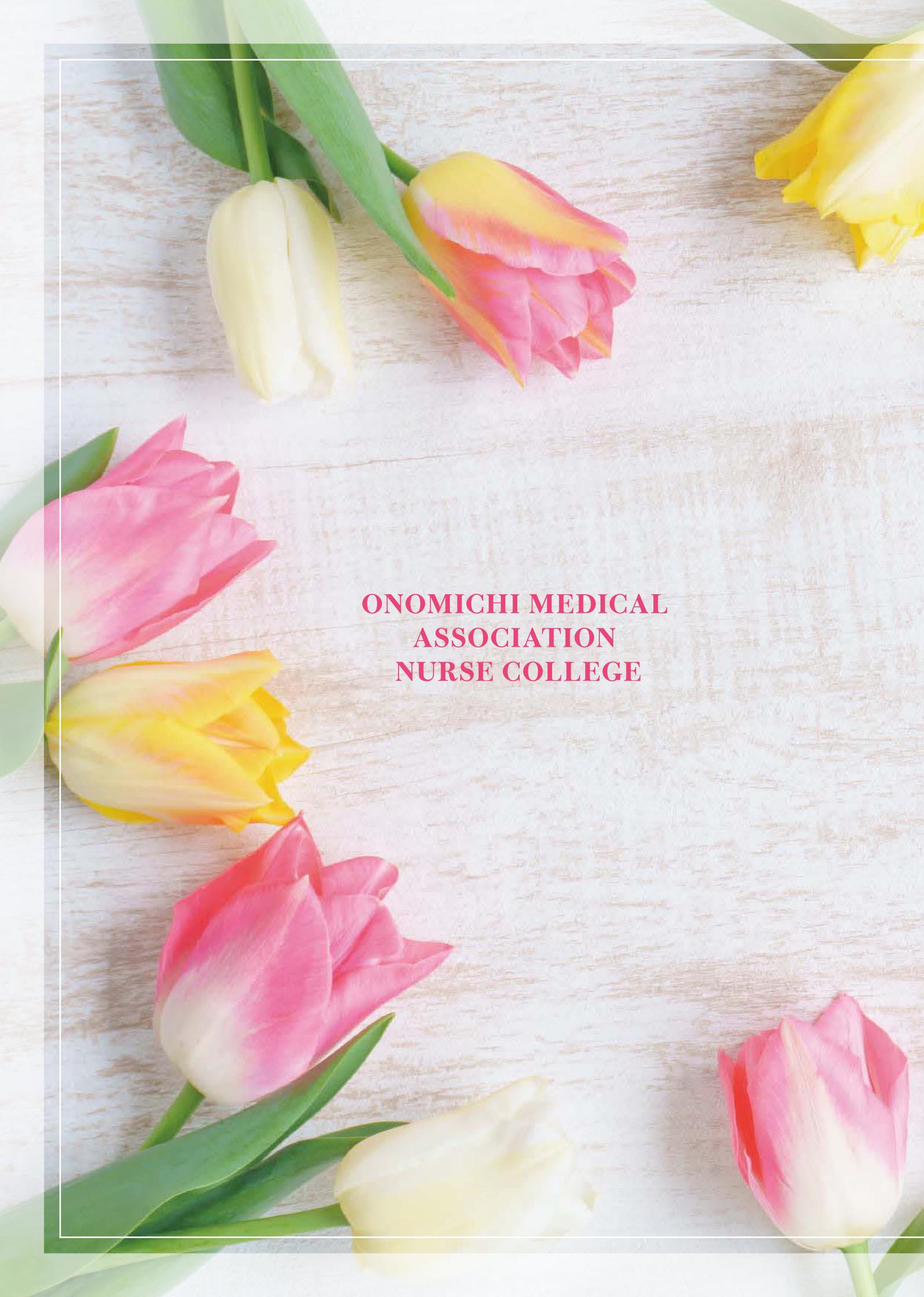
上野 宏泰

尾道市医師会看護専門学校  
**創立50周年記念誌**

2026年3月発行

発行者

尾道市医師会看護専門学校  
尾道市栗原東二丁目4番33号



**ONOMICHI MEDICAL  
ASSOCIATION  
NURSE COLLEGE**